

## 「特別支援教育の国際発信を」

### 筑波大学特別支援教育研究センター 岡 典子

はじめまして。岡 典子と申します。6月から、学内の異動で特別支援教育研究センターにまいりました。筑波大学には2008年から勤務しており、つくばキャンパスでは障害原理論という領域を担当しています。

私の専門は国内外の特別支援教育に関する理論研究で、これまでは障害者教育の歴史やインクルーシブ教育の国際比較などを中心にしながら、研究や学生指導に携わってきました。そのなかで、最近私がとくに強く考えるようになったこと、それは「どうしたら、もっと日本の特別支援教育の素晴らしさを海外に広く、しかも正確に発信できるだろうか」ということです。

日本の特別支援教育に関する古い資料などを読んでみると、日本が今も昔も変わらず、どんなに真剣に海外の理論や実践を学び、取り入れようとしてきたかがわかります。新しい知識や情報を吸収する食欲さや、他国の成果を積極的に取り入れようとする思考の柔軟さは、日本がもつ美点のひとつかもしれません。けれどもこうした「輸入」の努力の一方で、日本が蓄積してきた理論や実践の英知を発信すること、つまり「輸出」には、輸入ほどの関心やエネルギーを払ってこなかったことも、今も昔も本質的には変わっていないように思えます。

以前、出張でヨーロッパを訪れた際、現地の研究者からこんなことを言われました。ヨーロッパに来る日本の研究者や実践者は、皆、ヨーロッパの優れた取り組みを学びにきました、と言う。でも日本には、もしかすると日本の先生方が認識している以上に、優れた理論や実践が存在しているのではないか。それをもっと、広く発信してほしい。

5校の附属特別支援学校は、まさに日本が長年にわたって蓄積してきた特殊教育・特別支援教育の実践知の結集です。サランカ声明から20年が経過した今、世界のインクルーシブ教育はさまざまな意味で岐路に立っているといえます。これから、世界のインクルーシブ教育は、あるいは障害のある子どもたちの教育はどこに向かうのか。どこに向かうべきなのか。その問いを解く鍵が、各附属学校にはたくさんあると確信しています。各附属学校の取り組みをどうしたらもっと広く、正確に発信していけるか。先生方と一緒に、一步ずつ、その方法を考えていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。



## ■平成 26 年度 筑波大学免許法認定公開講座

筑波大学免許法認定公開講座は、平成 16 年の特別支援教育研究センター開設を期に人間系（障害科学域）、附属特別支援学校との連携のもと、実質上の企画運営を本センターが行って来ました。今年度 7 月 28 日(月)～8 月 8 日(金)の 12 日間 10 講座を実施し、全国からのべ 500 名程の方が受講されました。

本講座では情報保障として、パソコン要約筆記や点訳資料の配付等も行っており、今回は 12 日間、4 講座で実施いたしました。講座は、講義形式の講座、実技を交えた講座、さらにはグループ討議を取り入れた講座等がありました。人間系及び附属学校の先生方をはじめ、協力くださった皆様方には深く感謝申し上げます。

本講座の受講者アンケートの自由記述には「新しい知識を得たり、再度確認できたりして良かったです。また、わかりやすくお話いただいて理解しやすかったです。」「先生方には授業後の質問にも優しくお答えいただいて参考になりました。うれしかったです。」「講義だけでなく、実際の指導の様子や子どもの様子を映像で見ることができて分かりやすかったです。」「実際指導されている附属の先生の実践を知ることができ、大変参考になりました。」「現場の先生方の講義は大変勉強になりました。」等の記述がありました。

また、受講した最も強い動機に関する質問には、免許取得の目的以外にも「専門的な知識を身につける」ことを目的としている回答が数多く見られ、受講意識の高さが伺えました。



### ■受講した最も強い動機をお答えください。(複数回答不可)

上位の免許状を取得するため	特別支援学校の免許取得が必要と感じた	特別支援学校、特別支援学級や通級指導教室に勤務している	特別支援学校、特別支援学級や通級指導教室への転勤を考えている	通常学級で特別支援が必要な児童生徒を担当しているため	専門的な知識を身につけるため	管理職に勧められたため	その他
22	31	19	7	3	24	0	5

平成 26 年度免許法認定公開講座の受講者アンケートの結果より(数字は人数を表す)

## ■附属ニュース（附属大塚）

9月6日(土)に附属大塚特別支援学校中学部が附属高校桐蔭祭に参加し、「交流および共同学習」を行いました。今年も生徒会交流委員会と合同のステージ発表と作品展示・販売を行い、親睦を深めました。この交流会は、共通の目標に向けた活動を通して、積極的に社会参加する姿勢やお互いを尊重しながら支え合って生きていくことの大切さを学ぶよい機会となっています。（中学部主事・中村晋）



## ■特別支援教育研究センター10周年記念事業

1. 日時： 平成 26 年 12 月 14 日（日） 13 時 30 分～16 時 30 分
2. 場所： 筑波大学東京キャンパス文京校舎 1 階大講義室（134 講義室）
3. プログラム：

記念講演「特別支援教育の現代の課題と今後の充実に向けて」

宍戸和成氏（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所理事長）

記念シンポジウム

- 1) 特別支援教育とセンターの歩み

「特別支援教育の萌芽と筑波大学特別支援教育研究センターの設置」

齋藤佐和氏（筑波大学名誉教授・初代センター長）

「センターと特別支援教育」

前川久男氏（筑波大学名誉教授・第2代センター長）

- 2) センターの現在の活動と今後

「現職教員研修への期待」

「附属特別支援学校・センター・教育局の連携による

教材・指導法プロジェクトへの取り組み」

会費 記念講演・シンポジウム 無料

懇親会 17:00～(会費 3,000 円) 予定しております。

4. お申込み：お席に余裕が無くなってきました。出席希望の方は特別支援教育研究センター（☎03-3942-6923）またはスタッフまでお早めにご連絡ください。



## ■現職教員研修生日記

SNERC

本センターでは、高い専門性を持つ教員の養成を目的とし、一定の教育経験を持つ教員等を対象に研修生の受け入れをおこなっています。このコーナーでは、研修生の皆さんに日々頑張っていることなどを寄稿して頂きます。

### 静岡県立静岡北特別支援学校 加藤 悠

今年度、筑波大学特別支援教育研究センターでの現職教員研修生の一員として、貴重な学びの機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。また、柘植先生にはご多忙にもかかわらず、様々な角度から知的障害教育のご指導をいただき、深く感謝申し上げます。

所属校では、毎年「主体的に取り組む人を育てること」を目標に、継続して研究に取り組んでいますが、所属校との関連もあり、私は現在「知的障害特別支援学校における主体性に関する研究」に取り組んでいます。4月当初は、自分の歩むべく方向も歩き方も分からず、時間と焦りばかりが積もる毎日でしたが、先生方のご指導のおかげで、現在の研究を進めることができました。また、周囲の先生方と接する度に必ず新しい発見があり、「この経験を必ず現場に戻ったら生かすぞ！」と意気込む日々を送っています。

まだまだ、自分の研究内容に関しても、障害児教育全般の知識や技術に関しても課題は山積みですが、1つずつ丁寧に解決していき、日々精進していきたいと思います。



### 千葉県立楨の実特別支援学校 佐々木大輔

今年度、千葉県の長期研修生として、筑波大学特別支援教育研究センターで貴重な研究・研修の機会を与えていただき、心より感謝申し上げます。また、指導教員の柘植雅義先生には大変御多忙にもかかわらず、特別支援教育についてはもちろんのこと、研究の基礎知識から具体的な進め方まで幅広く丁寧に御指導をいただき、深く感謝申し上げます。

センターでは、附属5校のコーディネーターの先生方に各障害種別に丁寧に御指導をいただける他、筑波大学の教授・准教授の先生方からもテーマ毎に講義をしていただける等、大変充実した研修内容になっていて、毎日わくわくしながら貴重な時間を過ごしています。

個人研究では、附属大塚特別支援学校と所属校のたくさんの先生方に御協力をいただきながら、知的障害のある児童生徒の「社会性の育成」をテーマにあげ、「グリーンポイント」という学部で統一された評価ツールを使用した実践研究に取り組んでいます。同期の研修生の仲間にも恵まれ、お互いに励まし合いながら研究を進めています。

このように充実した研究・研修生活を送れているのも、これまで出会った多くの方々とお支えしてくれる家族のおかげであり、人とのかけわりの大切さを強く感じる毎日です。

